



塚本克彦
院長補佐

が続々と登場している。山梨県立中央病院院長補佐の塚本克彦医師（皮膚科）は「新薬によってこれまで治療が難しかった患者の症状

医療最前線

県立中央病院から
〈280〉

アトピー性皮膚炎など炎症を伴う皮膚の病気の中には、従来行われてきたステロイドを中心とした治療では効果が不十分なケースがある。近年、こうした難治性の炎症疾患に対する新薬

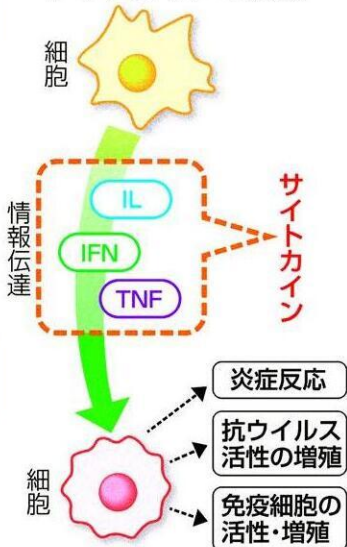
生物学的製剤が承認された皮膚疾患

- かんせん
- 乾癬
- じんましん
- アトピー性皮膚炎
- しょうせきのうほう
- 掌蹠膿疱症
- かのう
- 化膿性汗腺炎
- えそ
- 壊疽性膿皮症

JAK阻害薬が承認された皮膚疾患

- アトピー性皮膚炎
- 乾癬
- 円形脱毛症

サイトカインの役割



して炎症を止める。もう一つのJAK阻害薬は、サイトカインによる刺激が細胞内に伝わる時に必要なJAK（ヤヌスキナーゼ）という酵素を阻害する。JAK阻害薬は飲み薬で、注射薬の生物学的製剤よりも患者の負担は軽い。

生物学的製剤は6疾患、JAK阻害薬は3疾患です。既に承認されている。塚本医師は「特に重症のアトピー性皮膚炎、乾癬、じんましん、円形脱毛症は治療のす

新しい薬療法を取り入れている。塚本医師は「皮膚疾患で悩んでいる方は相談してほしい」と呼びかける。

次回24日に掲載します

難治性皮膚疾患に新薬続々

重症患者の選択肢拡大

改善につながっている」と話す。

皮膚の炎症疾患に關与しているのは「サイトカイン」と呼ばれる物質。研究が進

み、それぞれの病気に關与するサイトカインが特定されてきている。詳細なメカニズムの解明が近年の新薬開発に結び付いてきた。

新薬の代表として、生物学的製剤（抗体製剤）とJAK阻害薬がある。生物学的製剤は、病気に關与するサイトカインを「狙い撃ち

選択肢が広がったと感じている」と強調する。

新薬は誰にもすぐに投与できるわけではなく、基本的に症状が重かったり、長年治療を続けても改善がみられなかったりした患者が対象となる。薬の選択は作

用する仕組みや投与回数、有効性、安全性を十分考慮する必要がある、塚本医師は「それぞれの患者にあった適切な治療を心がけている」と話す。